

I 中古・近世の医療と社会

平安中後期における貴族と医師 増淵 徹 3

- はじめに 一 藤原実資と和氣相成・丹波忠明 二 藤原師通・忠実と丹波忠康・重康 三 施薬院使と医家丹波氏 おわりに

鎌倉幕府の医師 細川 涼一 25

- はじめに 一 丹波時長の鎌倉下向と三幡の治療——源氏將軍の時代
二 「尼將軍」北条政子時代の医師——丹波頼経（良基）と和氣定基 三 摂家將軍九条頼経の医師 四 摂家將軍九条頼嗣時代の医師——結番医道体制の確立
五 公家將軍宗尊親王の医師——丹波忠茂と丹波長世 六 『関東往還記』の丹波忠茂と丹波長世 おわりに

『本草綱目』に見る中国医療の到達点 島居 一康 45

- 一 『本草綱目』の版本について 二 『本草綱目』の成立過程 三 「綱」と

「目」——『本草綱目』における薬物分類の新機軸 四 中国医学史における『本草綱目』の到達点

〈コラム〉敦煌石窟壁画からみた民衆の喪葬礼儀——「老人入墓図」を取り上げて ……王 衛明 72

室町・戦国期の山科家の医療と「家薬」の形成 ……米澤洋子 82

——「三位法眼家傳秘方」をめぐる

はじめに 一 山科家と医療Ⅰ——教言から言国へ 二 山科家と医療Ⅱ

——言綱と「三位法眼家傳秘方」 三 山科家と医療Ⅲ——言繼と「家薬」の形成

おわりに

曲直瀬玄朔とその患者たち ……田端泰子 130

はじめに 一 曲直瀬玄朔と曲直瀬家 二 『玄朔道三配剤録』とは

三 診察の実態と患者たち おわりに

〈コラム〉モンゴル時代の文化交流——医術のケース ……小野 浩 170

II 近・現代の医療と社会

幕末京都における医家と医療 ……有坂道子 179

はじめに 一 病と治療 二 京医の種痘活動 三 小石究理堂での学び おわりに

明治前期の村と衛生・病氣——京都府乙訓郡上植野村を対象に ……高久嶺之介 201

はじめに 一 明治前期の京都府乙訓郡上植野村の概略 二 明治前期の

乙訓郡に医者ほど程いたか 三 種痘の開始 四 伝染病への対応

五 置き薬の世界 六 六人部講の成立

〈コラム〉W・B・イエイツ・シュタイナツ八手術・長寿法 ……浅井雅志 228

錯乱と崇りの間——森鷗外『蛇』の問題圏 ……野村幸一郎 242

はじめに 一 〈知性〉の近代 二 自我の彼岸 三 全体性への憧憬
おわりに

母乳が政治性を帯びるとき ……南 直人 259

——世紀転換期ドイツにおける乳児保護の実態と言説

はじめに——問題の所在 一 乳児死亡率問題 二 都市における乳児保護
のための諸施策——ベルリンを例として 三 母乳哺育推進か、人工乳改良か

——小児医学と乳児保護運動　おわりに——母乳問題をめぐる展開

《コラム》日本の看護基礎教育における死の教育についての概観……………奥野茂代 284

あとがき

執筆者紹介

I 中古・近世の医療と社会

有坂道子（ありさか・みちこ）

1969年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。現在、京都橋大学文学部准教授。『大地の肖像——絵図・地図が語る世界——』（共著、京都大学学術出版会、2007年）、『知識と学問をになう人びと』（共著、吉川弘文館、2007年）、『完本 兼葭堂日記』（編著、藝華書院、2009年）、『異文化交流史の再検討——日本近代の（経験）とその周辺』（共著、平凡社、2011年）、『木村兼葭堂と黄檗の文人文化』（『大阪の歴史』第78号、2012年）など。

高久嶺之介（たかく・れいのすけ）

1947年生。同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士（文化史学）。現在、京都橋大学文学部教授。『近代日本の地域社会と名望家』（柏書房、1997年）、『北垣国道日記「塵海」』（共編著、思文閣出版、2010年）、『近代日本の地域振興 京都府の近代』（思文閣出版、2011年）など。

浅井雅志（あさい・まさし）

1952年生。マンチェスター大学大学院博士課程修了（近代英文学専攻）。博士（文学）。現在、京都橋大学人間発達学部教授。『Fullness of Being: A Study of D. H. Lawrence』（リーベル出版、1992年）、『表象としての旅』（共著、東洋書林、2004年）、『ロレンス研究——「旅と異郷」』（共編著、朝日出版社、2010年）、『人と表象』（共著、悠書館、2011年）、『モダンの「おそれ」と「おののき」』（松柏社、2011年）、『ロレンスへの旅』（共著、松柏社、2012年）など。

野村幸一郎（のむら・こういちろう）

1964年生。立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、京都橋大学文学部教授。『森鷗外の日本近代』（白地社、1995年）、『森鷗外の歴史意識とその問題圏』（晃洋書房、2002年）、『小林秀雄 美的モデルネの行方』（和泉書院、2006年）など。

南直人（みなみ・なおと）

1957年生。大阪大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程中途退学。現在、京都橋大学文学部教授。修士（文学）。『ヨーロッパの舌はどう変わったか——十九世紀食卓革命——』（講談社、1998年）、『世界の食文化@ドイツ』（農山漁村文化協会、2003年）、『身体と医療の教育社会史』（共著、昭和堂、2003年）、『食の経済』（共著、ドメス出版、2011年）など。

奥野茂代（おくの・しげよ）

1941年生。筑波大学大学院教育研究科修士課程修了（教育学：カウンセリング）。現在、京都橋大学非常勤講師。元京都橋大学看護学部教授。『高齢者看護プラクティス：高齢者のための高度専門看護』（共編、中央法規、2005年）、『ケアの質を高める看護カウンセリング』第1版第7刷（共著、医歯薬出版、2009年）、『認知症高齢者の看護』第1版第4刷（共編、医歯薬出版、2012年）、『老年看護学』第4版第6刷（共編、ヌーヴェルヒロカワ、2012年）など。

いりょう しゃかいし せい ろう びょう し
医療の社会史——生・老・病・死

2013(平成25)年2月25日発行

定価：本体2,800円(税別)

編者 京都橘大学女性歴史文化研究所
発行者 田中 大
発行所 株式会社 思文閣出版
〒605-0089 京都市東山区元町355
電話075-751-1781(代表)

印刷
製本 亜細亜印刷株式会社

© Printed in Japan ISBN978-4-7842-1677-2 C1021

増 渕 徹 (ますぶち・とおる)

1958年生。東京大学文学部国史学科卒業。現在、京都橘大学文学部教授。『京の鴨川と橋——その歴史と生活——』(共著、思文閣出版、2001年)、『京都の女性史』(共著、思文閣出版、2002年)、『世界遺産と歴史学』(共著、山川出版社、2005年)、『史跡で読む日本史5 平安の都市と文化』(共著、吉川弘文館、2010年)など。

細 川 涼 一 (ほそかわ・りょういち)

1955年生。中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、京都橘大学文学部教授。『中世の律宗寺院と民衆』(吉川弘文館、1987年)、『中世の身分制と非人』(日本エディタースクール出版部、1994年)、『中世寺院の風景』(新曜社、1997年)など。

島 居 一 康 (しますえ・かずやす)

1942年生。京都大学大学院博士課程東洋史学専攻単位取得。博士(文学)。現在、京都橘大学文学部教授。『宋代税政史研究』(汲古書院、1993年)、『宋代財政構造の研究』(汲古書院、2012年)、『中国史像の再構成——国家と農民』(共著、文理閣、1983年)、『宋代の政治と社会』(共著、汲古書院、1988年)、『中国専制国家と社会統合』(共著、文理閣、1990年)、『東アジア専制国家と社会・経済』(共著、青木書店、1993年)など。

王 衛 明 (おう・えいめい)

1958年生。中国北京・中央美術学院美術史学部博士課程修了(東洋美術史専攻)。現在、京都橘大学文学部教授。『大聖慈寺画史叢考——唐・五代・宋時期西蜀仏教美術発展探源』(文化芸術出版社、北京、2005年)、『女たちのシルクロード——美の東西交流史』(共著、平凡社、2010年)など。

米 澤 洋 子 (よねざわ・ようこ)

1951年生。京都橘大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。京都橘大学女性歴史研究所勤務を経て、現在同大学非常勤講師。『中世後期の柿の流通と生産活動——山科東庄との関連において』(『京都橘女子大学大学院研究論集』第3号、2005年)、『山科家の栗贈答——中世後期の贈与行為に関する一考察』(『女性歴史文化研究所紀要』、2010年)、『珠玉の荘園「新見庄」』(共著、備北民報社、2011年)など。

田 端 泰 子 (たばた・やすこ)

1941年生。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、京都橘大学名誉教授。元京都橘大学学長。『中世村落の構造と領主制』(法政大学出版局、1986年)、『日本中世の女性』(吉川弘文館、1987年)、『日本中世女性史論』(塙書房、1994年)、『日本中世の社会と女性』(吉川弘文館、1998年)、『幕府を背負った尼御台 北条政子』(人文書院、2003年)、『山内一豊と千代』(岩波書店、2005年)、『北政所おね』(ミネルヴァ書房、2007年)、『細川ガラシャ』(ミネルヴァ書房、2010年)、『日本中世の村落・女性・社会』(吉川弘文館、2011年)など。

小 野 浩 (おの・ひろし)

1956年生。京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士後期課程単位取得後退学。現在、京都橘大学文学部教授。『岩波講座 世界歴史』11巻 中央ユーラシアの統合(共著、岩波書店、1997)、『ユーラシア中央城の歴史構図——13~15世紀の東西——』(共著、総合地球環境学研究所、2010年)など。